

「人と自然が共生する持続可能なまち」の実現に向けた調書

この調書は、令和7年度中に実施した事業などで、「人と自然が共生する持続可能なまち」の実現に向けて取り組んだ内容を経済・社会・環境の3側面にどのように配慮したのかを整理するもの。

上浦振興局地域振興課 佐伯創生推進総合対策事業

3側面の項目	取組の内容	前期基本計画やこれまでの事業開催内容からの改善点、工夫した点、課題など
経済	「かみうら食まつり」の代替イベントとして、上浦地域コミュニティ協議会が地域住民向けの「かみうらみんなのまつり」を開催した。 また、豊後二見ヶ浦のライトアップや初日の出イベントを開催し、観光客を呼び込む施策を展開した。	・「かみうら食まつり」から「かみうらみんなのまつり」に変更したことにより、これまでは外部集客に重きを置いていたが、今回は地域住民向けのイベントとすることで、自分たちの「まつり」であるという意識が芽生え、参加者には、濃いイベントとなった。しかしながら、地域住民向けということで参加者が少なく、盛り上がり欠けてしまった。 ・豊後二見ヶ浦のライトアップ、初日の出イベントは、観光面等の賑わいを助長し今後も引き続き行っていきたいと考える。
社会	旧姉妹町の竹田市荻町との交流を通じて、小学生を対象に田植え体験交流を実施し、参加者同士の交流の機会を創出した。また、中学生とその保護者を対象として、しめ縄飾り作製体験を行い地域文化の理解を深めた。 さらに、豊後二見ヶ浦しめ縄張替え作業では、地域住民や小中学生、高校生が参加し、しめ縄の張替え作業を行うことで、地域コミュニティのつながりを深めた。これらの活動を通じて、次世代に地域の魅力を伝え、人と人との交流を促進することができた。	豊後二見ヶ浦事業の一環として、「しめ縄飾り教室」を実施。事前に縄を綯う作業を行い、飾り付けの時間を確保することができた。
環境	河津桜やソメイヨシノ、ツツジ等の植樹活動を行い、美しい地域環境を創出した。 また、瀬会公園の景観改善を行い、市民が利用しやすい環境を整備した。草刈り活動や海岸清掃など地域の美化活動にも取り組んだ。	・いにいなめフラワーパークに花壇を増設し、これまでのプランターの数を減らしプラスチック製品の削減を行ったと共に、手入れがしやすく労力の軽減につながった。 ・小中学生と一緒に植樹会を開催することにより、小さいうちから草花に親しむ環境を整えた。

弥生振興局地域振興課 人材育成事業「野菜栽培講習会」の開催

3側面の項目	取組の内容	前期基本計画やこれまでの事業開催内容からの改善点、工夫した点、課題など
経済	弥生振興局が実施している野菜講習会は、農業分野で佐伯市のリーダーとなる人材を育成することを目的に、毎年講演内容を変えながら地元の野菜農家等を集め講習会を行っている。今年度は、生産者にとってより身近なテーマである「春夏野菜の栽培管理」について講演会を行い、弥生販売物出荷協議会会員の収益向上につながる講演を行った。	前年度は「土づくりと病虫害駆除」をテーマに講演をいただいた。今年度は福岡市の種苗メーカー（タキイ種苗株式会社）小島氏より「春まきおススメの品種と栽培ポイント」を経験値に基づく具体例や丁寧な説明が好評であったことが受講者のアンケート結果で確認することができた。
社会	野菜講習会には、道の駅やよいに野菜などを出荷している弥生販売物出荷協議会の会員以外にも、農業に興味がある方等も参加しており、本講習会を通じて様々な方が交流することで、新たなコミュニティの形成や農業知識の共有など、地域農業の発展につなげた。	春夏野菜（トマト・キュウリ・ナス等）の栽培管理がテーマであったため、弥生販売物出荷協議会の会員以外の一般の受講者も多く、全体の参加者数も前年と比較し10名以上多く盛況であった。
環境	講習会では自然環境への負担をできる限り少なく効率的に栽培するための方法などの講習を行っており、「春夏野菜の栽培管理」においては、野菜本来の力を活かしつつ必要最低限の肥料を与えるタイミングなどの助言もいただくことができ、収穫量を増やすだけでなく環境に配慮する意識づけを受講者に示すことができた。	改善点として、講習会の開催時期をもう少し早める（10月～11月）など検討の余地が残った。（アンケート結果より）また、講演会のテーマについても弥生販売物出荷協議会と連携を図り、有意義な講習会となるよう早めに決定することが必要だと改めて認識した。

本匠振興局 地域振興課 「第29回 本匠ほたる祭り」の開催

3側面の項目	取組の内容	前期基本計画やこれまでの事業開催内容からの改善点、工夫した点、課題など
経済	イベント会場となる本匠地区体育館内では、ステージイベントや餅まきが行われ、会場周辺の屋外では地元特産品の販売が行われるなど、山里の地域にひと時の賑わいを作り出し地域経済の循環を促すことができた。	・イベント会場周辺では、本匠地域の各種団体等による特産品の販売が行われ、地域経済の循環に寄与した。 ・来場者が祭りを楽しみながら、特産品等の購入が行えるよう、イベント時間の短縮や売店の配置の効率化により、販売が効果的に見える工夫を行った。
社会	西日本一といわれるゲンジボタルの群生地「ほたるの里」を市内外にPRし、ホタルの飛翔を観光に訪れる観光客と地域住民の交流による地域活気づくりが行える。	・本匠ほたる祭りの企画・運営を地元関係者のみならず、本匠地域コミュニティ協議会員を交えて行い、祭りでは本匠中学校生徒ボランティアが来場者と交流を行うなど、地域が一体となった取組へと改善している。 ・地元住民から不安視されていた来場者の交通渋滞は、駐車場や渋滞情報を細かく情報発信することで、特に問題は起きなかった。
環境	西日本一といわれるゲンジボタルの群生地「ほたるの里」は、地域住民でつくる「板屋地区ほたる鑑賞会」がホタルの生息環境等の整備を行っている。ホタルの発生時期には、散策路に遮光ネットを設置しホタルの飛翔の妨げにならないよう配慮するなど、長年培った経験により自然環境を維持している。	・ホタルの生態に配慮しながら、ホタル観賞地の支障木を伐採し、観賞客が安心してホタル観賞できる環境づくりを行った。 ・光を嫌うホタルの生態に配慮して、散策路に遮光ネットを設置しており、観賞客の交通安全対策として警備員の配置を行っているが、十分でない場合もあるため、観賞時のマナーなどをPRする必要がある。

宇目振興局 地域振興課 ユネスコエコパークをいかしたまちづくり

3側面の項目	取組の内容	前期基本計画やこれまでの事業開催内容からの改善点、工夫した点、課題など
経済	宇目地域に関する情報発信やイベント開催することで多くの観光客が店舗や出店などで食事したりおみやげを購入することで地域経済の活性化につなげる。	・宇目地域の魅力を発信するため、地域おこし協力隊の阿草氏が企画した宇目PR大使による交流サイトInstagramで国内外に宇目管内のイベントや各店舗情報などを発信している。(Instagram総フォロワー数242人)
社会	傾山及び藤河内溪谷を訪れた観光客が安全に利用できる施設の整備を行うことで、交流人口が増え活力にあふれた地域社会の実現につなげる。	・藤河内溪谷や傾山等の遊歩道や林道の草刈作業や路面清掃を行ったことで豊かな景観を守り環境保全への意識を高めることができた。 ・藤河内溪谷に繋がる市道桑の原藤河内線が混雑するため警備員の配置及び送迎バスを手配し観光客の安全対策を行った。(延べ日数8日間 延べ利用者数58名)
環境	「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」の宇目地域として引き続き、自然環境に配慮した観光を推進する。	・サイクルツーリズムの推進のため、道の駅宇目周辺のマウンテンバイクコースを整備して「マウンテンバイク講習会in宇目」を開催した。(開催日11月30日 参加者数13名)

直川振興局 地域振興課 「なおかわ桃源郷プロジェクト」の推進

3側面の項目	取組の内容	前期基本計画やこれまでの事業開催内容からの改善点、工夫した点、課題など
経済	花のある里としてハナモモで直川を活性化させる取り組み『なおかわ桃源郷プロジェクト』を展開し、見頃となる季節には他地域からのハナモモ見物客を呼び込むことで、地域内の観光施設や飲食店の収益増、地域経済の活性化が期待できる。	なおかわ桃源郷プロジェクトによるハナモモの植樹や管理を行い、マスコミへの取材や、各種ホームページやSNSにより開花状況について広く周知し、集客を図った。今後は直川米やジビエ等の地域の特産品と合わせて直川地域の魅力の相乗効果上がるよう、一体的な集客事業に取組む。
社会	直川地域創生支援協議会と地域の個人・団体がハナモモを植樹し、住民にとって誇りに思える郷土を創るとともに、開花シーズンには他地域からの交流人口増加が期待できる。	苗木の配布について直川地域コミュニティ協議会のホームページやSNSなどを活用した他、個別での周知を行い、ハナモモの里づくりを推進することで交流人口の増加が図れた。
環境	ハナモモの植樹により、地域住民の景観意識は向上しており、下刈り等の管理を通じて他地域に誇れる「美しい郷土」創りの実現が期待できる。	ハナモモ鑑賞スポット創出のため、補植・下刈り・施肥等の管理を徹底し行った。今後は既植樹地の管理の徹底により、花のある里として推進を図る。

鶴見振興局地域振興課 「つるみ御用閣プロジェクト」の推進

3側面の項目	取組の内容	前期基本計画やこれまでの事業開催内容からの改善点、工夫した点等
経済	持続可能な循環として地域内での経済停滞を防ぎ、小さな経済圏を維持する効果が期待できるほか買い物弱者が外部へ流出するのを防ぎ、地元商店に売上を還元することで、地域の商業基盤が守られる。また、支援事業自体が、ボランティアの活動費や事務局運営などを通じ、わずかながらも地域内での資金循環を生んでいる。	地域として生き残っていくために小さな経済圏を維持することが重要であるという機運をこの事業を通して醸成していった。今後も利用者拡大に向け支援事業の認知度を高めていく。
社会	この事業の核心であり、単なる「物販」を超えた価値を生み出している。買い物きっかけとした「見守り」が機能することで、高齢者の異変を早期に察知するセーフティネットとなっている。高齢者にとっては会話する機会になり、ボランティアグループにとっては「地域貢献という役割」を得る機会になっている。また、行政、社協、民間、ボランティアが共通の課題で動くことで、地域独自の強固なネットワークが構築されている。	この事業を通じ、単なる「物販」を超えた人と人とのつながりを強固なものにしていく。地域を守るためには地域総互助会的なつながりをより深めて行く必要がある。
環境	過疎地における移動の効率化は、直接的に環境負荷の低減に寄与する。高齢者が個別にバスやタクシーで移動する代わりに、買い物支援を行うことで、地域全体の走行距離と排出ガス抑制が期待できる。既存の地元スーパーという「インフラ」や、ボランティアという「人的資源」を再利用しており、新しいハコモノ（施設）を作らない低負荷な解決策となっている。	外部に頼らず地域課題を地域資源で解決していく取組を進めることで直接的に環境負荷の低減に寄与することができる。

米水津振興局 空の展望所、空の公園環境整備

3側面の項目	取組の内容	前期基本計画やこれまでの事業開催内容からの改善点、工夫した点、課題など
経済	春に「空カフェ」を空の展望所で実施。地域産品を販売することで、訪れた方へ食の魅力についてのアピールを行うことで活性化を行っている。「マガキ養殖を試みる会」により米水津で育成されたマガキを試食販売によりPRしている。	「空カフェ」と併せて「春の海鮮フェア」も実施しており、空の公園・展望所の景勝地を軸として誘客を図っている。今後は、元越山春の登山会のイベントにおいても地域産品のアピールを積極的に行っていききたい。
社会	芝桜やアジサイの開花期以外の時期でも、眺望が良いことで立ち寄られる方が多くいらっしゃいます。空の公園・展望所の海側の眺望確保（雑木剪定除草）に取り組んでいます。	芝桜の開花情報・アジサイの開花情報をSNS（インスタグラム）を活用して、情報発信に努めています。また、花後の剪定後の姿や芽吹きの情報など管理上の事柄を話題として提供しています。
環境	空の展望所の芝桜花壇は防草マットを用いた圃場に切り替えを行っている。切り替えを行う際の古い芝桜の株は、ボランティアの募集を行い枯死したところに植え込みを行い再利用を行った。	空の公園や空の展望所には芝桜やアジサイの開花期以外にも眺望を楽しまれる方が多く立ち寄られます。空カフェ等のイベント時以外でも地域産品の購買につながるようにPRして行く必要がある。

蒲江振興局地域振興課 元猿海岸の清掃や海亀放流イベントの開催

3側面の項目	取組の内容	前期基本計画やこれまでの事業開催内容からの改善点、工夫した点、課題など
経済	ポスターやチラシ、SNS等で呼びかけた参加者がビーチクリーンや海亀の放流という共通の目的で集まり、蒲江地域の元猿海岸を知ってもらうことで、美しい自然の保護や海洋ゴミ問題を啓発し、誘客を促した。海岸清掃イベントでは市内のキッチンカーを呼んだり、道の駅かまえやかまえインターパークを中心とした観光パンフレット等を配布し地域経済の循環を促した。	海岸清掃だけではなく経済の循環を図るため、主要観光施設のチラシ・パンフレットの配布はもちろん、海岸にあるごみで「ごみ投げ大会」を実施した。この大会は民宿やみそ生産者、道の駅かまえに協賛してもらい賞品を出してもらうことで、蒲江地域の特産品などを大いにPRし、帰りには購入して帰ってもらえるようにした。
社会	NPO法人おおいた環境保全フォーラムと協働し、海岸清掃イベント時と海亀放流イベント時に蒲江の定置網にかかったウミガメの放流を一般公開した。地域住民やSNSで集まった参加者に環境保護の大切さを共有し、地域のつながりの強化や活力向上を図った。また蒲江翔南学園児童と環境保全に関する看板を作成し、高山海岸と元猿海岸に設置することで地元住民や観光客の意識啓発を図った。	今年度はSNSや市HPなどで広く周知したため、約300の方が放流イベントに参加した。イベント時には蒲江地域のご当地キャラクターのステッカーを配布することにより、蒲江地域のファン拡大を図った。また海岸清掃前にはNPO法人おおいた環境保全フォーラムに協力依頼し蒲江翔南学園児童に環境保護に関する講話を行った。こういった活動が発端となり、蒲江翔南学園児童の環境保護意識の向上がみられ、児童の希望で高山海岸と元猿海岸に児童が作成したポスターを使った看板を設置した。これからはこういった活動と地域住民をさらにつなげていく取組が必要である。
環境	海岸清掃イベントではNPO法人おおいた環境保全フォーラムが海洋環境問題のブースを設置し、環境保全の啓発と海亀の公開を行った。またこのイベントから元猿海岸を清掃するボランティアグループが立ち上がっており、毎月1回海岸の清掃を行っている。また今年度はNPO法人おおいた環境保全フォーラムと共同で海岸清掃イベントを新たに実施し、海洋ゴミと海亀の産卵の障害となる流木の撤去を行った。別日には希少種であるグンバイヒルガオの群生地を守るため、外来種であるキミガヨランの駆除も実施した。	NPO法人おおいた環境保全フォーラムとさらに協働体制を深め、各種活動を協働して実施した。2回目の海岸清掃イベントを同団体主催で実施したり、ウミガメが産卵しやすくなるための流木撤去や希少植物の群生地を守るための外来種駆除など重点的に行った。今後は美しい自然が残る元猿海岸をPRするため、民間企業の主催イベントの誘致など積極的に取り組んでいく。